



遣伯使見聞録



Vamos para a escola! (学校へ行こう!)

⑤ 10月10日(木) EDITH EBINER ECKERT 学校訪問(全日制) ⇔ 鷹丘小学校

- ジャネ校長(5年目)
- 児童数 189人 (特別支援 17人)
 - 教員数 22人
 - 学級数 7学級
 - IDEB 6.6

【校長先生の話】
家庭教育が心配。仕事をしない親、麻薬を使う親もいる。野菜を育てたり、ごみ拾いをしたり、また近所の看護婦さんから命や体の大切さの



校長先生自ら、子どもに給食を食べさせてあげたり、保護者に学校での様子をつたえたりしています。他にも、シャワーを浴びさせてあげる子もいるそうです。



講話を聞いたりして、子ども

たちの心をきれいにしていく活動をしている。先生たちは校長の考えを理解し、よく動いてくれている。

IDEBの結果がよくないので、特別講師を呼んで、補修やテストの評価をしてもらっている。

★子どもたちの心をきれいにしていく活動が素晴らしいと思いました。家庭教育に期待ができないため、校長先生たちの様々な工夫や行動力が必要となります。

★担任の配置は、その学校の経験年数の長い教員から希望で選ぶことができるのには驚きました。

⑥ 10月10日(木) HERMETO BOTELHO 学校訪問(二部制) ⇔ 岩西小学校

- カラウジメイリ校長(3年目)
- 児童数 588人 (特別支援 60人)
 - 教員数 32人
 - 学級数 11学級
 - IDEB 8.3

【校長先生の話】

勉強だけでなく「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」がしっかり言えるように指導している。親の要望を受けて、次年度の方針を決めていく。安全のため、下校時は必ず担任が確認して引き渡しを行っている。学校運営については、子どもの指導担当二人と教員指導担当二人と校長で会議を行い、見直しを行っている。



教員指導担当が、月に一回各担任の授業を見に行き、指導をしている。

★保護者と対立関係になるのではなく、お互いの意見を受け入れることができていました。これも街の中心部とそうでない地域によって、

できることとできないことがあるように感じました。教員の授業を参観し、授業改善に努めている学校があることがうれしかったです。



先生の日 ～ナッツコラム～

ブラジルには「子どもの日」と「先生の日」があるんだよ。10月12日の「子どもの日」のある週は、勉強はほとんどしないで遊んでばかり。ゲームをしたり、お菓子を食べてり…いいなブラジルの子どもたちは！もっとうれしいのが10月14日「先生の日」。この日は先生と生徒、教育局もお休みになる。先生たちはパーティーをして、日ごろの疲れを癒してる(学校でパーティーしてるところもあるんだよ)。この開放的な雰囲気と制度を日本にも導入したらいいのになあと考えるナッツであった。(ナッツの腕時計より)

